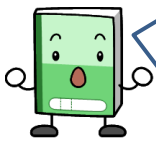


「指導と評価の一体化」のための学習評価（小学校図画工作科のポイント）【R2 NEW】



図画工作科では、学年の目標を学校や児童の実態などに応じ、弾力的な指導を重視する観点から、第1学年及び第2学年（低学年）、第3学年及び第4学年（中学年）、第5学年及び第6学年（高学年）の2学年ごとにまとめて示しています。各学年においては、2学年間を見通し、学年間の関連を図るとともに、**その1年間に必要な経験などを配慮しながら、それぞれの学年にふさわしい内容を選択して指導計画を作成し、目標の実現を目指すこと**になります。

【R2 NEW】では、「鑑賞」における評価の事例が追加されました。

単元ではなく「題材」です。

題材名

のこぎりザクザク生まれる形
(第3学年)

内容のまとめり

第3学年及び第4学年
「絵や立体、工作」「鑑賞」

1 題材の目標

- (1) ・自分の感覚や行為を通して、形や色などの組合せによる感じなどが分かる。
 - ・木やのこぎりを適切に扱うとともに、前学年までの木や接着剤などについての経験を生かし、手や体全体を十分に働かせ、表したいことに合わせて表し方を工夫して表す。
- (2) ・木を切ったり組み合わせたりして感じたことや想像したことから、表したいことを見付け、形や色などを生かしながら、どのように表すかについて考える。
 - ・自分たちの作品の造形的なよさや面白さ、表したいこと、いろいろな表し方などについて、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を広げる。
 - ・形や色などの組合せによる感じを基に、自分のイメージをもつ。
- (3) ・進んで木を切ったり組み合わせたりして立体に表したり鑑賞したりする活動に取り組み、つくりだす喜びを味わうとともに、形や色などに関わり楽しく豊かな生活を創造しようとする。

2 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・自分の感覚や行為を通して、形や色などの組合せによる感じが<u>分かっている。</u> ・木やのこぎりを適切に扱うとともに、前学年までの木や接着剤などについての経験を生かし、手や体全体を十分に働かせ、表したいことに合わせて表し方を工夫して表している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・形や色などの組合せによる感じを基に、自分のイメージをもちながら、木を切ったり組み合わせたりして感じたことや想像したことから、表したいことを見付け、形や色などを生かしながら、どのように表すかについて<u>考えている。</u> ・形や色などの組合せによる感じを基に、自分のイメージをもちながら、自分たちの作品の造形的なよさや面白さ、表したいこと、いろいろな表し方などについて、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を<u>広げている。</u> 	<ul style="list-style-type: none"> ・つくりだす喜びを味わい進んで木を切ったり組み合わせたりして立体に表したり、鑑賞したりする学習活動に<u>取り組もうとしている。</u>

文末は「～ている。」

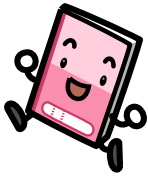
文末は「～ようとしている。」

3 指導と評価の計画（全6時間）

時間	ねらい・学習活動	評価の観点と評価方法					備考
		知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	
		知識	技能	発想や構想	鑑賞		
1	<ul style="list-style-type: none"> ・のこぎりの使い方を知り、木をいろいろな長さや形に工夫して切る。 ・のこぎりを適切に扱う。 						1、2時間目は記録に残す評価はしないが、「技能」の視点で児童の学習状況を把握し、指導に生かす。それを踏まえて5時間目に「技能」の視点で児童の活動の姿などを捉え、記録に残す。
2	<p>【評価の実際】 のこぎりで木を切る感覚をつかみ、体全体を働かせてリズムよく切っている。長い木を端から切るだけでなく、真ん中から切る、切り口を斜めにするなどして木の形が多様になっている。</p>						
3	<ul style="list-style-type: none"> ・切った木（木片）を並べたり組み合わせたりしながら、表したいことを見付け、どのように表すかについて考える。 						3時間目は記録に残す評価はしないが、「思考・判断・表現（発想や構想）」の視点で児童の学習状況を把握し、指導に生かす。それを踏まえて4時間目に「思考・判断・表現（発想や構想）」の視点で児童の活動の姿などを捉え、記録に残す。
4	<p>【評価の実際】 木片と木片を組み合わせたり、向きを変えたり、木片を入れ替えたりしながら、どのような形ができるかを考えている。 木片の組合せ方を考えて少しずつづらしてつなげ、上がっていきける階段のようにしている。</p>				観察 対話 作品		
5	<ul style="list-style-type: none"> ・さらに木を切って組み合わせるなどしながら、表したいことに合わせて表し方を工夫して表す。 	◎ 観察 対話 作品	◎ 観察 対話 作品				<p>【評価の実際】 木片を重ねたり比べたりしながら組み合わせることができるの感じに着目している。 表したい感じになるように長細い木片の付け方や木片の組合せ方を工夫して表している。 のこぎりの刃を斜めにして木を薄く切り、それを組み合わせてプロペラの薄い羽を表している。</p>
6	<ul style="list-style-type: none"> ・自分たちの作品を見て感じ取ったり考えたりしたことを友人と話し合いながら、自分の見方や感じ方を広げる。 				◎ 観察 作品カード 対話	◎ 観察 対話 作品 作品カード	<p>【評価の実際】 友人の作品を見て、鳥の羽の形を動作化することで、造形的なよさや面白さ、表したいことなどを感じ取っている。</p>

○・・・題材の評価規準に照らして、適宜、児童の学習状況を把握し指導に生かす。

◎・・・題材の評価規準に照らして、全員の学習状況を記録に残す。



観点別学習状況を記録に残す場面等を精選するためには、題材のまとまりの中で適切に評価を実施できるよう、指導と評価の計画を立てる段階から、計画的に評価の時期や評価方法を考えておくことが非常に重要です。

なお、日々の授業の中で児童の学習状況を適宜把握して指導の改善に生かすことは非常に重要であるため、**児童の学習状況を記録に残す場面以外においても、教師が児童の学習状況を確認する必要があります。**

作品と作品カードの評価（例）



『大かいだんのひみつきち』大かいだんをぐねぐねにして二かいに行ったりてんぼう台に行ったりできるようにしました。木をおもしろい形になるように切りました。

【評価の実際】

階段をつくろうと木片の向きや大きさを考えていた。階段全体が緩やかな螺旋状になるように木片の組合せを工夫して接着していた。一番上の段は横に向いていて、一步を踏みだすと展望台に着くようになっていると話していた。

『そらとぶりゅう』口の中にうすい板を入れました。組み合わせる木の形も工夫しました。いろいろな形の三角や四角の木を使ってつくりました。

【評価の実際】

のこぎりの扱いに慣れるにつれて楽しくなり、どんどん木を切っていた。薄く切ったり、斜めに切ったりした木片の形を生かして竜が首を曲げながら口を開けている様子を表すことを思い付いている。木片の形を生かして組み合わせ、工夫して表していた。



『メカとり』立つところを工夫しました。見てほしいところは羽です。羽の形を三角にして広がっているようにしました。

【評価の実際】

三角や四角に切った木片のいろいろな組合せ方を試して表したいことを考えていた。三角の木片の切り口の尖った感じからピンと広がった羽のイメージをもち、鳥を表すことを思い付いた。二本足で立つことにもこだわり、木片を付ける位置を工夫して表していた。

